

第51回島尻地区中学校新人軟式野球大会要項

1 主 催	島尻地区中学校体育連盟			
2 共 催	沖縄県中学校体育連盟・沖縄県教育委員会・島尻市町村教育長会 南城市教育委員会、豊見城市教育委員会、八重瀬町教育委員会、糸満市教育委員会、 南風原町教育委員会			
3 後 援	島尻地区PTA連合会			
4 期 日	令和8年1月17日（土）、1月18日（日）、1月24日（土）、1月31日（土） 予備日 2/1日（日）			
5 会 場	瀬長島球場・新開球場・玉城野球場・知念屋外運動場			
6 申込締切	令和7年12月17日（水）の監督会開始時刻まで			
7 参加申込	地区専門部長（公印入りの申込用紙を提出）			
8 参加資格	学校長が許可したチーム及び沖縄県中体連承認を得た地域クラブチーム。硬式ボールを使用球としている団体の構成員の出場は認めない。			
9 企画運営	島尻地区中学校体育連盟野球専門部 上江洲茂人（兼城） 知花健太郎（与那原） 宮城秋太（豊見城） 中村義智（佐敷） 新垣良太（西崎） 大城朝夫（玉城） 金城真希（高嶺） 上里優斗（伊良波） 玉城幸平（長嶺） 比屋根憲太（大里） 外間純（糸満） 金城弘周（知念） 高良豪（具志頭） 前城弥（南星） 大城友喜（潮平） 島袋利幸（南風原） 勢理客一誠（東風平） 伊藤誠（豊崎）			
11 競技規則	2025年日本軟式野球連盟の競技規則及び本大会規定に準ずる。			
12 大会規定	(1) 1チームの登録は、選手25名、監督1名、コーチ2名の28名以内とする。大会で ベンチに入れる人員は、監督、コーチ、選手およびチーム代表者（引率責任者）、 マネージャー、スコアラー、トレーナー（有資格者）の各1名とする。 (2) 競技形式は、トーナメント方式とする。 (3) 得点差によるコールドゲームは3回以降10点差、5回以降7点差とする。 (4) 全試合、特別継続試合を適用する。（サスペンデット） (5) 各試合7イニングとする。試合が7回を終了して同点の場合は8回からタイブレーク （無死1・2塁継続打順制の特別延長戦を行い勝負が決するまでこれを繰り返す）。 (6) チームの選手（監督、コーチを含む）は同色、同形のユニホームを着用する。選手は スパイクを着用する、監督、コーチについてはシューズでもよい。（ <u>シューズ、スパイクは色の混在を認める。なお、高校野球対応のものとする</u> ）。チーム代表者（引率 責任者）、マネージャー、スコアラー、トレーナーは平服とする。 (7) 一日に同一チームは3試合行わない。 (8) 連続して試合を行う場合は、前試合の終了後、30分後に試合を開始する。 (9) 捕手は全日本軟式野球連盟公認マークとSGマーク入りのマスク、スロートガード、レガース、 プロテクター、ヘルメット、ファウルカップを着用する。打者、走者、次打者、ベースコーチ、 バットボーイとも両方のイヤーフラップのついた公認マーク（J.S.B.B.）入りのヘルメット 着用すること。 (10) 背番号は1～25を使用し、原則としてポジション順とする。 (11) <u>メディシンボール等、アップ、トレーニングのための補助具は打順表の提出までは使 用することができる。</u> (12) 試合中のケガは、応急処置のみとする。（当該チームで対応） (13) 選手の引率は当該校の教職員、部活動指導員（もしくは各自治体で部活動指導員と同 様の権限を与えられた指導員）とする。教員以外のコーチについては、学校長の認め たもので、地区、県中体連に登録されたものとする。 *下線は地区大会に限る。 (14) 地域スポーツ団体等（地域クラブ活動）の参加資格の特例については、沖縄県中學 校体育大会開催基準「特別基準」による。（県中学校体育連盟HP参照） (15) 投手の投球制限については、別に定める。 (16) 大会細則については、別に定める。			
13 試合球	ケンコーボールM号とする。			
14 組合せ	令和7年12月17日（水）の監督会で抽選する。			
15 表彰	優勝チームには優勝旗と賞状を、準優勝チームと3位チームには賞状を授与する。また個人賞とし て殊勲賞、敢闘賞、打撃賞1位、2位、3位には賞状を授与する。 今大会の上位3チームを第33回沖縄海邦銀行杯争奪中学校軟式野球大会へ地区代表として 推薦する。			

第51回島尻地区中学校新人軟式野球大会細則

- 1 試合時間 試合時間は1時間30分とし計算する。
- 2 オーダー交換 (1) オーダー提出は前の試合の3イニング終了時までに提出。攻守決定は4イニング終了時（第1試合は試合開始45分前）に監督立ちあいの上、主将が行う。但し、連続試合で先発投手が主将の場合は、登録メンバーから代理を認める。
- 3 ダッグアウト (1) 抽選番号の若い番号を一塁側とする。但し、同一チームが連続して試合を行う場合は移動しない。試合中は登録された監督・コーチ・選手以外のベンチ入りは禁止する
(2) ダッグアウト外からの選手への指示、アドバイスは禁止とする。
(3) ダッグアウト内でのメガホンの使用は、監督、コーチのみとする。（チームで1個）
(4) 試合中必要な選手以外は、ダッグアウトよりグラウンドへ出てはいけない。
- 4 シートノック (1) シートノックは行わない。
- 5 応援 (1) 中学生にふさわしい応援をする。（チアホーンは禁止）
(2) 応援団は試合終了後、スタンド（応援場所）の清掃を行う。
- 6 守備側と攻撃側のタイムの回数の制限
(1) 捕手または内野手が、1試合（7イニング）に投手の所へ行ける回数は3回以内とする。
(2) 延長戦（タイブレークも含む）となった場合は、1イニングに1回行くことができる。
(3) 攻撃側についても同様とする。
- 7 監督が投手の所へ行く回数の制限
(1) 監督が1試合（7イニング）に投手の所へ行ける回数は3回以内とする。
(2) 延長戦（タイブレークも含む）となった場合は、1イニングに1回行くことができる。
- 8 試合のスピード化
(1) ベースコーチ・打者・次打者・バットボーイの5名は攻撃前のミーティングには参加せず、所定の場所に移動すること。
(2) 投球を受けた捕手は、速やかに投手に返球すること。
(3) 捕手から返球を受けた投手は、速やかに投手板を踏んで投球姿勢をとること。
(4) 次打者席では、投手が投球動作に入ったら素振りをしてはならない。投手も必ず次打者席に入ること。
(5) サイン交換は迅速に行うこと。打者はボックス内でサインを見ること。
- 9 その他
(1) アピールは当事者、主将又は監督に限る。
(2) 一試合目の球場内でのウォーミングアップは、アップ用の服装（同一が望ましい）で行つてもよいが、オーダー提出時には、全員ユニフォームに着替えていること。オーダー交換前までは芝生内でのスパイクの着用は禁止とする。（2試合目以降のスパイクは可とする。）
(3) ストッキングの形と色は統一する。
(4) 投球練習を受ける選手は、防具の着用を義務づける。
(5) 手袋は原則として「白」又は「黒」を主とした高校野球対応の手袋とする。
(6) 投手の投球制限については、肘・肩の障害防止を考慮し、大会中の1日の投球数を100球、1週間の投球数を350球とする。試合中に制限投球数に到達した場合はその打者が打撃を完了するまで投球できる。ただしイニングをまたぐことはできない。
(7) 12秒ルール、20秒ルールを適用する。
(8) 試合前においてはサイドノックを認める。サイドノックとは、ベンチ前を利用して塁間程度の距離でゴロ打球の補球練習をすることを言う。ノッカーにボールを渡す選手や野手からの送球をノッカー近くで捕球する選手は必ずヘルメットを着用すること。
(9) 次のイニングに引き続き投げる投手は、ベンチ正面でのキャッチボールを禁止するが、ベンチ外野側角からポール方向のファウルテリトリーでの軽いキャッチボールは認める。また、ブルペンでのキャッチボールは2組4名以内を認める。
(10) トレーナー（有資格者）とは、医療的資格（理学療法士・柔道整復師・看護師等）を指す。